

花火や紅葉など手形アートで四季を表現した作品が並ぶ会場＝浜松市中区の静岡文化芸術大で



多彩な芸術
じっくりと

四季の美 手形に込め

学生と障害者 共に制作

静岡文化芸術大

静岡文化芸術大の学生らと障害のある人たちが共に取り組んだアート作品展「華を結つひとたち展」が19日、浜松市中区の文化芸術大ギャラリーで始まった。多様な感性を大切にしながら、四季の美しさをテーマに作り上げた手形アート作品約40点が並ぶ。23日まで。夏の夜空を彩る花火や秋

の紅葉の景色などを、さまざまな色や形で押された手形で表現した作品が目を引き。文化芸術大と聖隷クリストファー大（同市北区）の学生、市内の知的障害者と親でつくる「浜松手をつなぐ育成会」が共に制作した手形アート作品を展示する。絵の具の感触が苦手な人に対しては、指先や足を使って作品を表現してもらうなど、参加者たちの感性が発揮されている。

文化芸術大と県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」の共催。作品展のタイトルには、一人一人が持つ個性の華やかさから、作品を作り上げるといふ意味が込められている。活動に参加した文化芸術大の文化政策学部3年前田葵さん（21）は「参加者全員が押し込んだ手形にはそれぞれの個性がある。その違いも楽しんでほしい」と話す。

午前9時～午後6時（最終日は正午まで）。入場無料。（山本晃暉）